

平成30年度自己評価書

学校名 和歌山市立河北中学校

校長名 角田 佳 隆

作成日 平成31年2月5日

学校教育目標

【正しく判断し ねばり強く実践する 心豊かでたくましい生徒の育成】

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を積極的に発信する。 ○保護者との信頼関係をさらに強化する。 ○地域から信頼される学校づくりにつとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きめ細かな生徒指導に心がけるとともに全教職員が取り組むことで、校内体制のさらなる充実を図る。 ○あらゆる機会をとらえ、自ら考える力や、相手を思いやる心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用するなどして指導方法の工夫改善を図り、基礎学力の充実に努める。 ○生徒一人一人を大切にしたり、子に応じた指導を行う。 ○粘り強く、主体的に学ぶ姿勢を育てる。
目標達成に向けた具体的目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観日を年間3回程度設け保護者の来校を促す。 ○学級、学年便り、保健便り等、各種通信を発行し、積極的に学校の活動を地域や保護者に知らせる。 ○生徒指導面で支援が必要な生徒の状況について家庭連絡と保護者、関係機関との連携を密にする。 ○校区内の巡視と校区内の小学校との連携、情報交換を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談の機会を学期ごとに設け生徒理解を図る。 ○道徳教育推進教師を中心として道徳教育の全体計画と年間計画を作成し実行する。また副読本等を効果的に活用する。 ○すべての教育活動を通して人権同和学習への積極的な取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が研修に励むとともに、外部講師を迎えての研修を行いスキルアップを図る。 ○少人数指導（2年生数学）を実施し、基礎学力の充実に努める。 ○定期的な放課後補習、長期休業中の特別教室を実施する。 ○特別支援教育に関する校内研修を実施するとともに、通常学級に在籍する支援を必要とする生徒の個別の指導計画を作成する。
取組の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの充実を図る。 ○きめ細かい対応を行ったが特に1年生の不登校生徒の減少にはいたらなかった。 ○校区内4小中学管理職協議会を開催し連携を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の情報交換や共有を行いある程度の成果はあったが問題行動の根絶には至らなかった。 ○外部講師による特設授業の実施に取り組むことができた。 ○支援学校等と積極的に交流を行い、障害者問題に取り組む事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の授業改善に向け、現職教育、教員相互の授業公開など研修を行った。 ○共同学習及び少人数指導により授業に参加できる生徒が増えた。 ○普通学級で個別の指導計画により支援の必要な生徒への対応ができた。 ○学習の手引きを配付し、学習への意識向上を図った。
次年度への改善方法	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、地域向けに「学校便り」等による情報発信を行う。 ○校区内4小学校との学力向上に関する連携を図る。 ○保護者、地域、外部機関の協力を得ながら、きめ細かい取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、地域、外部機関の協力を得ながら、実態に則した取組を行う。また問題行動に対しては外部機関との連携を積極的に行う。 ○外部講師の活用、他校種との交流、連係に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○補充学習の充実を図る。 ○共同学習を進め、学力の向上を目指す。 ○「学び合いの授業」をめざし、教員の授業力の向上を図る。 ○国語力の向上を図る。

その他学校運営についての課題や計画

<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解に努め、生徒指導面における諸課題解決に向けた努力を行う。 ○地域の人々や保護者に学校教育への理解と協力を求めるとともに関係機関との連携に努める。 ○基礎学力の充実に努めるため、教員の授業力向上を図る。 ○夏季補習、朝学、放課後補習などを充実させ基礎学力の定着を図る。 ○「学び合いの授業」を継続して行い、読解力、書く力、表現力、思考力等の向上を図る。
